アクサ生命、東北大学知の創出センター

キックオフシンポジウム開催

デジタル社会における保険イノベーション

アクサ生命と東北大学研究推進・支援機構知の創出センターが共同で開設したプログラム「デジタル社会における保険イノベーション」のキックオフシンポジウムが9月14日、オンラインで開催された。東京経済大学経営学部教授・一橋大学名誉教授の米山高生氏がインシュアテックをテーマに、また、アクサ生命取締役専務執行役員の松田貴夫氏が保険ビジネスモデルの変革をテーマにした基調講演を行ったほか、アクサ生命の役職者や東北大学の教員が講演やパネル討論を行った。当日は研究者や企業関係者など多数が視聴した。

同プログラムは、東日本大震災による被災地の各種支援活動を継続しているアクサ生命と、日本で初めて訪問滞在型の研究センターとして世界トップクラスの研究者を招聘（しょうへい）し、未来社会への課題解決のための場を提供する東北大学知の創出センターが共同で開設したもので、テクノロジーの進化と不可分な未来社会を保険の観点からどのようにデザインしていくべきか、というテーマで研究者、企業、学生、さまざまな世代の市民が一緒に考え、議論し、社会に提言するプログラム。10月の開始を前に先行イベントが行われた。

シンポジウムでは、冒頭にアクサ生命代表取締役社長兼CEOの安渕聖司氏があいさつした後、米山教授が「インシュアテックが保険に与える影響：保険理論から考える」をテーマに基調講演を行った。はじめに、学問としての保険は従来、文系の商学部や経済学部で教えられている半面、保険数理といった理系的な側面もあり、「保険は文と理の結節点」だと紹介した上で、近年、文系では保険理論にコーポレートファイナンスが深く関連するようになる一方、アクチュアリーでは数理ファイナンスという新しい研究領域が生まれるなどして文と理の距離感が狭まっていると述べた。

次に、インシュアテックを保険理論から考える前提として、保険の価格理論について説明。経済学では、自由で公平な市場を前提とした場合、全ての市場参加者にとって公平な価格が存在するとし、保険市場における公正保険料は、①期待損失コスト②資産運用の成果③保険管理の経費④投資家に対する利益―の四つの構成要素で決定されることを紹介し、「効率的な保険市場」や「リスクの保険可能性」といった概念について解説した。

米山教授がインシュアテックテーマに基調講演

続いて、近年、保険業界に大きな変化をもたらしているインシュアテックの影響について公正保険料を構成する4要素に沿って説明した。期待損失コスト（運用成果を無視した場合のリスクの原価）への影響については、インシュアテックによって期待保険金コストのより正確な推定が可能になり、変動（リスク）が小さくなれば、保険経営のためのバッファである資本の節約につながるとした他、契約者の契約後の行動をICTによって安いコストでモニタリングできるようになることで保険料が安くなる可能性（テレマティクス保険や健康増進型保険）や、期待損失コストを直接小さくする活動（減災対策）を指摘した。また、資産運用に与える影響では、運用成果の向上と運用リスクの軽減に加え、保険ERMを前提とした資産運用が必要になってきている現状から、高度な金融工学人材が必要とされるようになってくると説明した。

インシュアテックの「Profit Loading（資本コスト）」や「Expense Loading（運営管理費）」への影響や可能性について述べた後、まとめとして、「インシュアテックは、公正保険料の構成要素のコスト切り下げ、公正保険料の低減を通して保険市場の効率化をもたらす」とのシナリオを紹介した。最後に、保険業界の枠を超えたインシュアテックの可能性について、「保険の進化によってカーボンニュートラルや貧困の問題、回復力のある経済・社会といったグローバルの問題に対しても一定の貢献ができるのではないか」との期待を述べた。

松田氏は、「ペイヤーからパートナーへ～保険ビジネスモデルの変革～」と題した基調講演を行った。はじめに自社グループについて紹介した後、保険の特徴として、「消費財とは異なり、商材が目に見えないことから、データに基づき、リスクの発生確率をいかに予測するかが保険ビジネスの根幹になる」と述べた。

また、近年のテクノロジーやデータ分析技術の進歩によって顧客のリスクは「Unknown（潜在）」から「Known（顕在）」に変わってきたと指摘。アクサ生命の顧客に対する役割も、これまでの顧客に不幸な出来事が起こった時の迅速な保険金・給付金の支払いといった経済的なサポートから、不幸な出来事が起こらないようにするためのプロアクティブなアドバイスなど、安心を求めて保険に加入している契約者の一生涯の幸せをサポートすることに変化したとし、同社では「PayerからPartnerへ」とのスローガンを掲げていると述べた。

アクサグループのビジネスモデルの変革に不可欠なデータ分析やインシュアテックの取り組みについて紹介してから、松田氏は、今後社員に求められる能力として、「データサイエンス・数学的なCapability」「ITプラットフォームをつくるCapability」「ビジネスに対する理解・洞察力（Business acumen）」を挙げる一方、数学以外での訴求やリーダーのコミットメントといった対応も必要だとした。

最後に、学生への期待として、①しっかり学び、社会で実践を②グローバルに、国境を越えて活躍を③より良い地球、より良い未来づくりを―の3点を挙げ、「次代を担う皆さんには大きな夢を持っていただき、われわれと一緒になって素晴らしい未来に対して貢献してもらえればと思う」と述べた。

この後、東北大学東北メディカル・メガバンク機構の荻島創一教授による「コホート・バイオバンクのデータによる未来型医療への取組」をテーマにした特別講演、東北大学大学院経済学研究科の照井伸彦教授による「社会経済のデータサイエンス」と題した特別講演、東北大学知の創出センターの山内恒人氏がファシリテーターを務め、同センターの岩沢宏和氏、アクサ生命執行役員商品開発本部長の河島鉄郎氏がパネラーとして参加したパネル討論などが行われた。

米山氏

松田氏